

新春座談会 徳島市の防災を考える 遠藤市長×徳島市防災サポーター



▲野口七海さん
(四国放送アナウンサー)

▲徳島市長 遠藤彰良

▲鈴江結衣さん(城東高校3年生)

▲藤野勝成さん
(NHK気象予報士)

新しい年を迎え、あらためて災害から暮らしを守る備えや徳島市の防災について見つめ直してみませんか。今号では、徳島市防災サポーターとして活動される方々をお招きし、日頃の取り組みや徳島市の防災の今後などについて、市長と語り合っていました。

◆市長 新年明けましておめでとうございます。本日は、徳島市防災サポーターとして取り組まれている皆さんにお越しいただきました。南海トラフ巨大地震の今後30年以内の発生確率が60%から90%程度以上と公表され、いつ起こってもおかしくないという状況の中、情報発信力のある藤野さん、野口さん、そして未来を担う高校生の鈴江さんにお話を伺いたと思います。



3人の徳島市防災サポーター きっかけと想い

- ◆市長 まず始めに、皆さんがどのようなきっかけや想いで徳島市防災サポーターに応募されたのかお聞かせください。
- ◆藤野 私は地元が千葉の方なんですけど、徳島に来て、身近に綺麗な山や川などの豊かな自然やイベントなどが盛りだくさんで、面白いことがいっぱい詰まった徳島が好きになり、徳島の力になりたいと思ったのがきっかけです。いろんな防災のイベント参加や訓練を通じて得た知識や情報を出演番組で発信したり、SNSで市の活動内容を紹介したりしています。
- ◆野口 四国放送でも地震を想定した訓練はよく行っていますが、訓練は災害発生後の対応が中心です。「まず被害を減らすことが大切で、その役割をアナウンサーが担うべき」と考え、発信の説得力を高めるために防災士の資格を取得しました。さらに、市民の方々と近い距離で関わるため、徳島市防災サポーターへの参加を決めました。
- ◆鈴江 幼い頃から自然災害に不安を感じ、家庭で避難グッズの準備を行ってきました。さらに、詳しい防災知識を身につけることで安心につながると考え、高校2年生の頃、徳島県教育委員会主催の「地域防災人材育成講座」に参加し、防災士の資格を取得しました。また、広報媒体で徳島市防災サポーターの募集を知り、より積極的に地域の防災に関わりたと思い応募しました。

それぞれの日頃からの備え・心構え

- ◆市長 私は寝るとき、真っ暗でもすぐ履けるように枕元に靴を置いています。市役所の危機管理課の職員から教わった方法で、毎日その靴が目に入ることで、防災意識を忘れずにいられると感じています。枕元が難しければ、寝室の出口付近でもよいと思います。皆さんはどうされていますか。
- ◆鈴江 非常用の持ち出し袋に水やすぐ食べられる食品、ビスケットや栄養補助食品などを準備しています。また、学校の防災クラブに所属し、避難訓練の際は、啓発活動や防災に関する説明を行うなど、防災意識を高める取り組みをしています。
- ◆藤野 日常生活の中でも、ふとした瞬間に「もしここで地震が起きたらどうしよう」と考えるようにしています。例えば家族で旅行に行ったときに災害が起こったら、家族をどう守るかなど、避難や周囲の安全を意識するようにしています。
- ◆市長 多くの人は日常生活の中で、防災意識を忘れがちです。災害後しばらくは教訓が語り継がれますが、時間が経つと日常が戻り、経験が伝わりにくくなることがあります。普段からの意識が大切ですよね。野口さんはいかがでしょう。
- ◆野口 私は車に防災ボトル、かばんに防災ポーチを常備しています。東日本大震災の発生時、東京に住んでいたのですが、自宅に一晚帰宅できず、さらに、コンタクトを無くしてしまって、とても不安な思いをしました。それが怖くて、コンタクトの替えと小さなライトなどを必ず持つようにしています。防災ボトルの中身は全部100円ショップのものです。1日でもしのげるということが心の安心にも繋がりますし、準備の大切さをラジオやSNSで発信していて、実際に「作っ

徳島市防災サポーターとは

すべての市民が安全・安心に暮らせる「災害に強いまちづくり」を推進するため、大規模災害発生時の避難所運営支援など、地域の防災リーダーとしてご活躍いただく、防災士の資格をお持ちの方のうち徳島市が任命させていただいた方々です。



詳しくは▲

